

シルバー人材活用 6団体に要請書

県や富山労働局

県と県シルバー人材センター連合会、富山労働局は24日、県内の6経済団体に、センターの活用と就業促進支援を求める要請書を提出した。



富山市の県中小企業研修センターでは、谷崎正県シルバー人材センター連合会長、柿沢昌宏県商工労働部次長が、県商工会連合会の上野和博専務理事に要請書を渡した。写真。

高齢者に行ける仕事の切り分けや介護、事務業務での就業などに協力を求め、上野専務理事が「各企業のニーズとマッチングを進めたい」と応じた。

県経営者協会、県商工会議所連合会、富山商工会議所、県中小企業団体中央会、高岡商工会議所にも順に要請した。富山労働局の荒木亨之高齢者対策担当官が同行した。

富山新聞 8月25日(金)

上野専務理事（右）に要請文書を手渡す谷崎会長。左は柿沢次長
＝県商工会連合会



企業の人手不足が深刻化していることから、県と県シルバー人材センター連合会は24日、県内の各経済団体にに対し、もっとセンターを活用するよう要請した。

高齢者の経験活用を

県とシルバー人材センター 経済団体に要請

富山市赤江町の県商工会連合会の事務所には県シルバー人材センター連合会の谷崎正会長と柿沢昌宏県商工労働部次長が訪問し、上野和博専務理事に要請文書を手渡した。柿沢次長は「知識と経験のある高齢者を生かすことを考えてほしい。高齢者向けのワークショップも進めてもらいたい」と述べた。富山労働局の荒木亨之高齢者対策担当官が同行した。

県と同センター連合会は、受注拡大のため毎年要請活動を行っている。この日は県経営者協会と県中小企業団体中央会、富山、高岡の両商工会議所にも文書を提出した。

北日本新聞 8月25日(金)